

所 管 事 項 調 査 に 関 す る 資 料

目 次

	ページ
1 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について	1～ 4
2 中学校教科書採択結果について	5～ 9

教 育 委 員 会

平 成 3 0 年 9 月



1 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

イ 調査内容

(ア) 教科に関する調査

○ 小学校 … 国語A・B、算数A・B、理科

○ 中学校 … 国語A・B、数学A・B、理科

※ A…主として「知識」に関する問題、B…主として「活用」に関する問題

(イ) 質問紙調査

○ 児童生徒に対する調査 … 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○ 学校に対する調査 … 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

ウ 調査期日 平成30年4月17日(火)

エ 調査実施校数及び児童生徒数

(ア) 実施校数 107校 (調査対象者の在籍する学校の総数)
(小学校:68校、中学校:39校)

(イ) 参加児童・生徒数

・小学校6年生 3,203人 ・中学校3年生 2,823人

オ 調査結果の公表について

(ア) 「学力調査結果の概要」、「児童生徒質問紙調査結果の概要」、「市全体の平均正答率」、「改善の方向性」についての公表を行う。

(イ) 長崎市として、個々の学校名を明らかにした結果の公表は行わない。

(ウ) 各学校は、自校の分析結果を踏まえた改善方策の公表を行う。原則として、数値による公表は行わない。

(2) 結果の概要

ア 学力調査結果の概要(「長崎市及び県・全国の平均正答率」、「全国との差」)

※ 数値単位は、%

		小学校6年					中学校3年				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
H30	長崎市の正答率	70	54	63	51	61	75	60	66	46	65
	県の正答率	69	54	62	50	60	75	60	65	45	66
	全国の正答率	71	55	64	52	60	76	61	66	47	66
	全国との差	-1	-1	-1	-1	1	-1	-1	0	-1	-1

※ 平成28年度の結果から、教科毎の平均正答率については、「整数」で示すように変更となった。

<参考1> 平成29年度の学力調査結果

		小学校6年				中学校3年			
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
H29	長崎市の正答率	74	57	77	44	78	73	66	49
	県の正答率	73	56	78	43	77	72	64	48
	全国の正答率	75	58	79	46	77	72	65	48
	全国との差	-1	-1	-2	-2	1	1	1	1

<参考2> 平成27年度の小学校6年生(現中学校3年生)の学力調査結果

		小学校6年				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
H27	長崎市の正答率	68.1	65.2	73.4	45.5	59.6
	県の正答率	69.0	64.1	74.0	43.5	58.8
	全国の正答率	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
	全国との差	-1.9	-0.2	-1.8	0.5	-1.2

○ 本市の平均正答率については、調査10項目中、1項目(小理)は全国を上回り、1項目(中数A)は全国と同等、8項目は全国を下回った。

○ 下回っている8項目の中では、算数のA・B問題は昨年度に比べ全国との差が縮まった。

○ 中学校においては、前年度は全ての項目で全国を上回っていたが、本年度は全ての項目で全国と同等または下回っており、課題が大きい。しかし、平成27年度の小学6年時に受けた調査と比較すると、国語A、数学Aでは全国との差が縮まっており、改善が見られる。

イ 学習状況や生活習慣の調査結果の概要
特徴的な項目について

(児童生徒質問紙調査からの抜粋)

	質問項目	小学校			中学校		
		評価	平成30年度	差	評価	平成30年度	差
1	人の役に立つ人間になりたい	○	全国 95.2 市 95.4	+0.2	◎	全国 94.9 市 96.3	+1.4
2	自分によいところがあると思う	○	全国 84.0 市 84.5	+0.5	◎	全国 78.8 市 80.1	+1.3
3	いじめは、いけないことだと思う	○	全国 96.8 市 96.8	0	◎	全国 95.5 市 96.8	+1.3
4	先生は、よいところを認めてくれる	○	全国 85.3 市 85.4	+0.1	○	全国 82.2 市 82.6	+0.4
5	学校の規則を守っている	△	全国 89.5 市 86.5	-3.0	△	全国 95.1 市 93.8	-1.3
6	将来の夢や目標を持っている	△	全国 85.1 市 83.7	-1.4	△	全国 72.4 市 70.7	-1.7
7	家で、学校の宿題をする(小学校) 家で、計画的な勉強をする(中学校)	△	全国 97.1 市 96.7	-0.4	△	全国 52.1 市 47.1	-5.0
8	1時間以上勉強する(小学校) 2時間以上勉強する(中学校)	○	全国 66.2 市 66.6	+0.4	△	全国 36.4 市 30.3	-6.1
9	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	△	全国 49.9 市 46.8	-3.1	△	全国 38.7 市 36.6	-2.1
10	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	◎	全国 36.1 市 40.2	+4.1	◎	全国 51.8 市 53.6	+1.8
11	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	◎	全国 77.0 市 78.0	+1.0	◎	全国 74.2 市 76.9	+2.7
12	毎日、同じくらいの時刻に起きている	△	全国 88.8 市 88.7	-0.1	◎	全国 90.3 市 92.3	+2.0
13	朝食を毎日食べている	△	全国 94.5 市 94.0	-0.5	◎	全国 91.9 市 93.3	+1.4

※ 全国との差が +は○、-は△、+1.0以上の場合◎と評価

- 質問項目が昨年度までと大幅に変更になった。今年度から新たに設定した項目は、4・5・7・9・10である。
- 「人の役に立つ人間になりたい」「自分によいところがあると思う」「いじめは、いけないことだと思う」の割合は、以前から引き続き全国平均より高く、健全で良好な意識をもっていることが分かる。
- 「学校の規則を守っている」「将来の夢や目標を持っている」の割合は、小・中学校共に全国平均より低い。
- 家庭学習については、小学校では全国平均との差が上下1ポイント差であるが、中学校においては「2時間以上勉強する」、「家で計画的に勉強する」割合がいずれもかなり低い。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」割合は小・中共に高くはないが、「ボランティア活動に参加したことがある」割合は、どちらも良好である。しっかりと意識をもたせて参加させる働きかけが必要である。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」については、昨年度と同様の傾向である。これまでも取り組んでいるが、小学校での起床時刻、朝食摂取については、さらに家庭に働きかけていきたい。

ウ 課題の傾向と改善の方向性

(ア) 学習指導に関すること

課題の傾向	改善の方向性
<p>● 小・中学校ともに、正答率が全国平均を下回っている項目が多い。特に、以前から知識に関するA問題については課題となっていたが、改善されていない。</p>	<p>○ 校長会と一層連携を強化し、全市的な重点取組を決定・実施する。 ○ 基礎・基本定着のための方策の徹底・継続を図る。</p>
<p>● 小・中学校ともに、児童生徒を対象とした調査で、「これまでの授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」について、全国に比べ否定的な回答が多い。</p>	<p>○ 対話的な授業を仕組むことで、自分の考えを表現する機会を意識的に多く設定する。 ○ 小・中学校ともに、引き続き、基礎・基本の定着に係る全校一斉取組の徹底・継続を図る。 ○ 「自分の考えやその理由等を書く力」を伸ばす授業づくりを一層推進する。</p>
<p>● 小・中学校ともに、特にB問題において、「解答時間は十分だった」と感じている児童生徒が全国に比べて低い。</p>	<p>○ 一定時間内で行う「長文読解」や「条件作文」等を位置付けた授業を実施する。</p>

(イ) 学習状況や生活習慣に関すること

課題の傾向	改善の方向性
<p>● 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒が全国に比べ低い。</p>	<p>○ 小学校からのキャリア教育の充実を図る。 ○ 特別活動を中心に、仲間と力を合わせ学校行事等をつくりあげる体験や宿泊学習など、体験活動を重視した取組を行う。</p>
<p>● 「学校の規則を守っている」児童生徒が全国に比べ低い。また、小学校では、起床時刻や朝食摂取において、全国に比べ低い。</p>	<p>○ 生活習慣・学習規律の一層の定着を図る。 ・ 幼保小、小中の連携の推進継続 ・ 学校、家庭、地域の連携による取組の推進継続 ・ 長崎っ子の約束「あ・は・は運動」の一層の推進 あいさつ・へんじげんきよく！ はやね・はやおき・あさごはん！ はきもの そろえ いいきもち！</p>
<p>● 小学生の「家庭で学校の宿題をしている」割合が全国に比べて低い。 中学生の「家庭で勉強する時間(学習塾等を含む)」「家で計画的に勉強する」割合が全国に比べて低い。</p>	<p>○ 小学校においては、「学校の宿題を行い、今日、学習した内容を家庭で復習すること」の徹底を図る。中学校においては、「家庭学習の時間や内容を含め、自分で学習計画を立てて実践すること」の徹底を図る。</p>

2 中学校教科書採択結果について

(1) 「特別の教科 道徳」の教科書採択について

ア 道徳の教科化の目的

(ア) 道徳の教科化へのきっかけ

- ・ 深刻ないじめ問題を発端に、2013年教育再生実行会議において、道徳を教科として位置付けることが提言された。

(イ) 道徳教育の主な課題

- ・ 道徳教育を忌避しがちな風潮があること
- ・ 道徳が他教科と比べて軽んじられていること
- ・ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った指導の例があること

(ウ) 改善の方向性

発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え向き合う、「考える道徳」・「議論する道徳」へと転換を図る。

イ 本年度の採択について

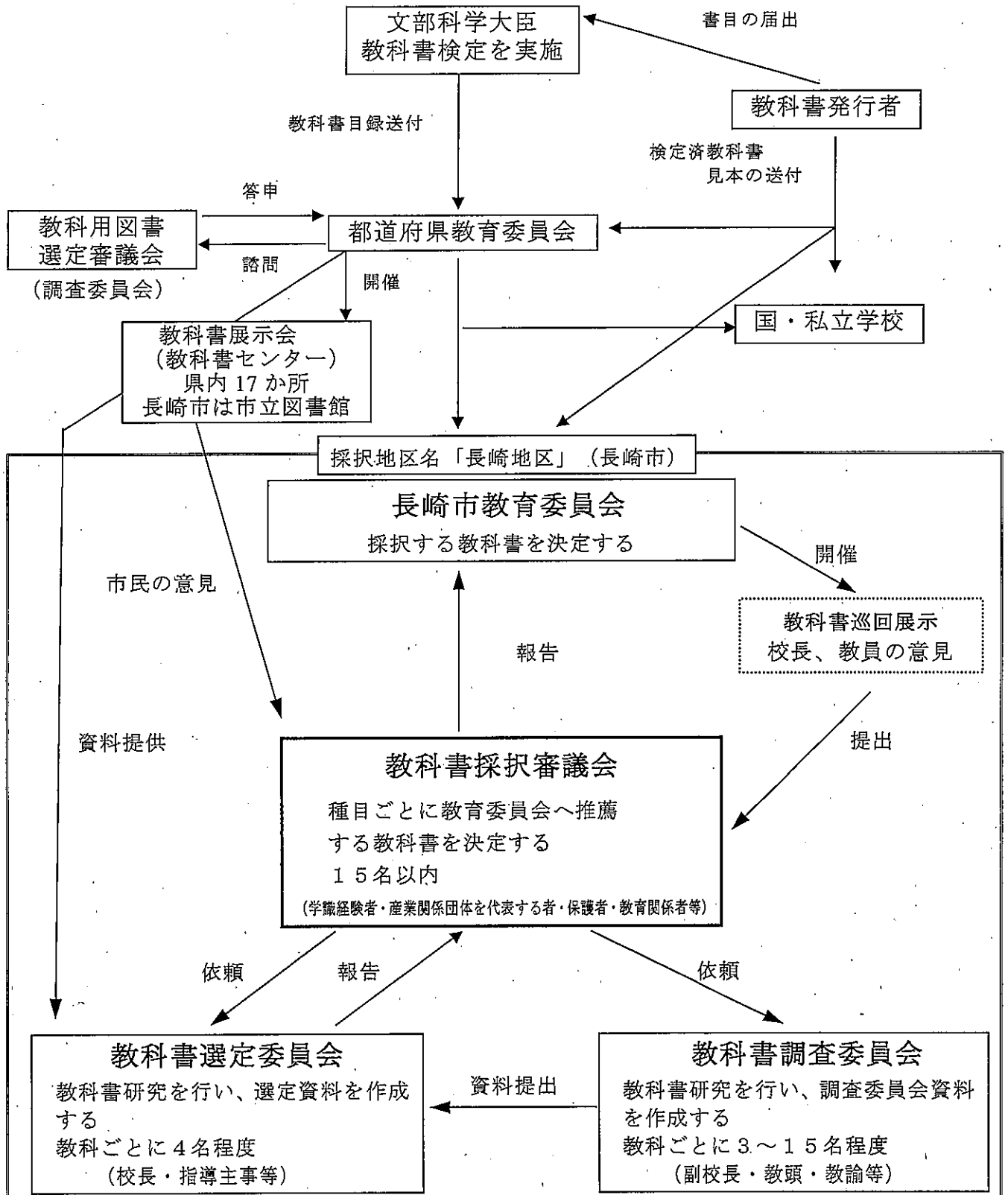
平成31年度から使用する「特別の教科 道徳」の教科書採択を本年度実施する。

ウ 「特別の教科 道徳」の教科書採択期間について

今回採択する教科書は、平成31、32年度の2年間使用する。

平成33年度から使用する教科書については、中学校の他教科と同じく、平成32年度に採択を行う。

(2) 教科書採択の流れ



(3) 教科書採択審議の経過

ア 教科書調査委員会	5月10日～6月6日	3回実施
イ 教科書選定委員会	5月9日～6月27日	4回実施
ウ 教科書採択審議会	5月2日、7月11日	2回実施
エ 教育委員会	4月24日、5月15日 7月24日、8月23日	4回実施

(4) 採択結果

教科・種目	発行者
特別の教科 道徳	日本文教出版

※ 参考 平成31年度使用中学校「特別の教科 道徳」の教科書発行者

発行者
東京書籍
学校図書
教育出版
光村図書出版
日本文教出版
学研教育みらい
廣済堂あかつき
日本教科書

(5) 採択理由等

採択結果	日本文教出版
審議会報告	<p>■採択審議会の審議結果について、次のような報告がなされた。</p> <p>○東京書籍、光村図書出版、日本文教出版の教科書は、身近な話題をテーマにした題材が多く、生徒は意欲をもって学習に取り組むことができる。また、工夫した指導方法（言語活動、問題解決的な学習など）が行える題材が多く含まれており、「考え、議論する道徳」の授業が実現できる教科書である。</p> <p>○道徳が教科になった要因に「いじめ問題」がある。東京書籍は、「いじめ問題」についてまとめて取り扱っていて、日本文教出版は、定期的に「いじめ問題」を取り扱っているなど、「いじめ問題」を重視し、工夫が見られる教科書となっている。</p> <p>○中学生は、発達段階において、自分の考えや思いを文章化することで、自己を振り返り、内省する生徒が多いため、道徳ノートの活用が有効的である。日本文教出版の道徳ノートは、毎回取り組むことができ、自己の変容を確認するとともに、担当教諭は、生徒一人一人の考え方や価値観の変容を観察し、評価することができる。</p> <p>以上のことから、 長崎市教科書採択審議会として、東京書籍と日本文教出版の2社を推薦するという報告があった。</p>
審議の経過及び主な意見	<p>■教育委員会の審議では、主に次のような議論がなされた。</p> <p>○全8社の教科書は、学習指導要領が目指す「考え、議論する道徳」に向けて、題材等の工夫がされていて甲乙付けがたい。</p> <p>○審議委員会が推薦した東京書籍と日本文教出版の2社は、どちらも素晴らしくよくできている。</p> <p>○選定委員会が作成した資料においては、東京書籍の評価が高かったが、審議委員会は日本文教出版を高く評価した。その理由として「特に重視した観点には差が見られないこと」「いじめ問題において日本文教出版が優れていること」「付属のノートがある日本文教出版は、生徒の考えを引き出せる工夫が見られること」があった。</p> <p>○学校巡回アンケートでは、校長、教職員の意見も、東京書籍と日本文教出版を評価する意見が多かった。</p> <p>○学校巡回アンケートの結果で圧倒的に多かったのは、校長も教職員も「優劣なし」であった。「優劣なし」の理由については、教科書研究を行う時間が十分ではなかったことが主な要因だと予想される。</p> <p>○日本文教出版の教科書は、特に「いじめ問題」についての内容が充実している。</p> <p>○日本文教出版の教科書に付属しているノートは、自分の率直な考えを書くことができるような工夫が見られる。</p>
採択の理由	<p>■教育委員会は、主に以下のような理由で、日本文教出版を採択した。</p> <p>○日本文教出版は、特に、「いじめ問題」について、「学ばせたいことは何か」「どのような力を身に付けさせたいのか」の意図が分かる教科書となっている。</p>

- | | |
|--|---|
| | <p>○日本文教出版は、葛藤する場面を設定しやすい構成になっている。「考え、議論する道徳」を意識した教科書だと言える。</p> <p>○日本文教出版は、付属するノートの活用を通して、自分事として題材を捉え、考えようとする工夫が見られる。</p> <p>○日本文教出版は、生徒が取り組みやすい題材が多く含まれている。</p> |
|--|---|

(6) 公表

ア 市政資料コーナーにおける公開 (平成30年9月1日)

- (7) 平成31年度使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書
- (4) 教科書採択審議に係る審議等の経過
- (5) 教科書採択審議会 議事録 (第1回・第2回)
- (1) 教科書採択審議会関係資料
- (2) 意見集計結果 (校長・教職員)
- (3) 長崎市教科書採択審議会委員、選定委員、調査委員 名簿
- (6) 長崎市教科書採択審議会規則
- (7) 中学校教科書採択の基本的な指針
- (7) 教科書採択に関する組織

イ 長崎市教育委員会ホームページにおける公開 (平成30年9月1日)